

株の達人新聞

2010年9月
9月6日版

「株の達人」では、さまざまなテクニカル指標を使い、先物・オプションから個別銘柄までチャート分析を行っています。テクニカル指標を有効に活用すれば、売買のタイミングもわかりやすく、投資が簡単になると思います。ぜひ、この機会にテクニカル分析による投資を知っていただき、効率的な資産運用を行なっていただきたいと思います。

9月第1週の日経平均株価の動向と今後

9月第2週の主なスケジュール

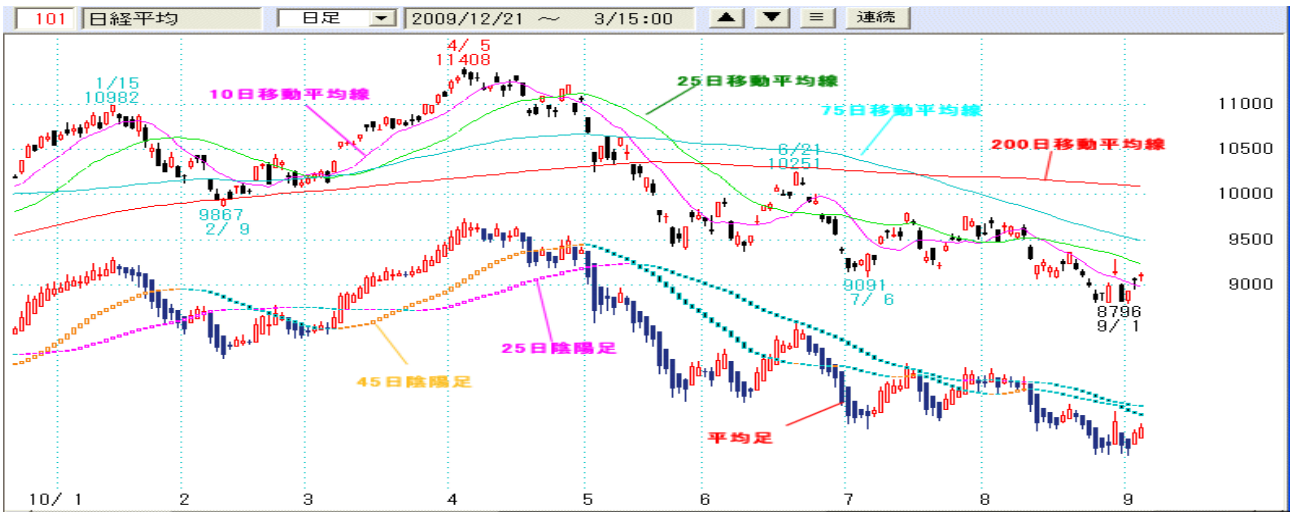
- 6日(月) 日銀金融政策決定会合(17時) 米国市場休場
- 7日(火) 7月景気動向指数(14時)
- 8日(水) 7月機械受注(8時50分) 7月国際収支(8時50分) 8月マネーストック(8時50分) 8月景気ウォッチャー調査(14時) 9日(木) 7-9月期法人企業景気予測調査(8時50分) 8月消費者動向指数(14時) 7月貿易収支(米国) 10日(金) 先物オプションSQ 8月企業物価指数(8時50分) 7月卸売在庫(米国)

テクニカル分析

月足チャートは、60ヶ月移動平均線は下向きで、株価は同線を30%以上下回っています。6ヶ月移動平均線も下回っていますので、同線が上値抵抗線となっている間は下降基調の動きです。また、3ヶ月移動平均線も下回っていますので弱い状態となっています。

日足チャートでは、75日 2000日移動平均線共に下向きで、2000日移動平均線の上に75日移動平均線があります。株価は、75日移動平均線を下回っていますので、同線が上値抵抗線となっている間は中期的には下降基調の動きです。

短期的には、5日と10日移動平均線がGクロスとなり、株価は5日移動平



均線を上回っています。10日移動平均線を下値支持線としている間は下げ渋りの動きになると思われます。しかし、8月25日から9月1日の安値圏での下値の固さを感じさせますが、8月30日の上抜け陽線が売り売り圧力の強さを暗示しています。したがって、上値のシコリが解消されないと、25日移動平均線が下向きで、同線が上値抵抗線となる可能性があります。

4月27日と8月3日高値を結んだ線が上値抵抗線となっている間は下降基調の動きと思われます。ただ、8月10日と19日高値を結んだ線を上回っていますので、同線を下値支持線としている場合、9月1日安値を割り込まないことが条件になりますが下げ渋りの動きになると思われます。

75日線形回帰トレンドは下降トレンドで、株価は±1%の範囲で推移しています。中心線を上げると、±1%までの上昇余地も出てきます。25日線形回帰トレンドは下降トレンドで、株価は±1%の範囲で推移し、3日時点ですでに±1%まで上昇しています。今後、±1%を上抜けると一旦下げ渋りの動きになると思われます。

裁定買い残は若干8月24日から減少傾向となっています。9月の先物オプション



シヨンのSQに向けて、解消売りが出ていると思われます。裁定買い残が減少傾向が継続する場合は上値が重くなると思われます。

ボリンジャーバンド

株価の勢いの変化や反転の目安、方向を見る指標です。一定期間のデータの標準偏差(シグマσ)を算出し、移動平均線に対してシグマの2〜3倍を加算したものをバンドの上端、減算したものを下端として表示します。

ボリンジャーバンドは、値動きが激しくなっても、緩やかになっても、移動平均線を中心にした上下のバンドに向けて株価が上下する、または、上下のバンドを大きく突破しないという特徴を利用します。

売買ポイント

〈逆張り手法〉
 プラスマイナス1〜3σを各々下値支持線や上値抵抗線と考え、株価がマイナス1〜3σにきたときに買いポイント、プラス1〜3σにきたときに売りポイントとみます。

〈順張り手法〉
 プラスマイナス2〜3σを超えて推移したときは、これまでのトレンドが転換した可能性があるため、マイナス2〜3σにきたときは売りポイント、プ

ラス2〜3σにきたときは買いポイントとみます。

過去のボリンジャーバンドの検証

東証1部 積水ハウス(1928)を取り上げて検証してみましよう。

200日移動平均線の下に75日移動平均線があり、株価は75日移動平均線を下回っています。20日ボリンジャーバンドでは、5月以降、株価が75日移動平均線を割り込んでから、中心線以下で推移する日が多くなっています。

ボリンジャーバンドは、バンド幅が拡大したり収縮したりしますので、単純にバンドの上限で売りタイミン

グ、下限で買いタイミンとは判断できません。4月中旬以降、株価はバンドの下限で買いポイントとした場合、その後株価は大幅に下落していただきますので損失となります。

株価がバンドの中心線より上や下の一方に片寄った動いたときは、バンド幅が縮小状態から拡大傾向と転換してきます。したがって、バンド幅の動きに注目して売買を行う必要があります。そもそもボリンジャーバンドは株価を統計的に捉えて作成された指標なので、株価がバンド内に収まる確

率を利用して売買タイミンとする方法が一般的ですが、それは株価の動きがボックス相場の時に有効となります。積水ハウスみたいにバンド幅の変化が大きい場合は、見方を買える必要があります。

わからないことが出てきたら

「株の達人」では、お客様のサポートも完全無料でご案内しております。チャートの見方や株の達人による銘柄選択方法など、何でもご相談ください。

情報提供サービス

株の達人新聞は毎週第1営業日にメルマガ配信サイト「まぐまぐ」にて配信しています。登録は完全無料。株の達人の会員の方だけでなく、どなたでもOK

株の達人

株式会社ストック・データバンク
 (営業企画部 古賀)

東京都新宿区高田馬場2-14-2 新陽ビル801
 TEL: 03-3204-3727 / FAX: 03-3204-3691
 メール staff@kabutatu.jp
 ホームページ http://www.sevendata.co.jp/

株の達人新聞は情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終決定はご自身の判断 責任でなさいますようお願いいたします。